

讀賣新聞

2015年(平成27年)

10月4日曜

評・前田 英樹(批評家
立教大教授)

木を知る・木に学ぶ

石井誠治著

新書の1冊だが、中味はぎっしり詰まつていて、何度も読み尽くせない思いがする。著者は「樹木医」ということだけでも、語られて

いるのは樹木のことだけではない。日本に生育する植物全體と、光、土、水、空気との繋がり、動物や人間社会との濃密で纖細な共生関係、縄文時代以来、日本人がこの土地

の上に築いてきた文明との長い相互作用の時間、そうしたことが、具体例に即して次々に述べられる。

私など、みな驚かされるところばかりだが、多くの人にとつてもそうなのではないか。私たちほど、私たち自身の生命が、どんなにたくさんの自然の糸を通して、宇宙の全体に結びつけられているかを考え

ないし、知ろうともしない。そのような態度で、日本の歴史や社会や文化の現状を考えることなど愚かである。

この本は、そのことを、ただもう事実だけを列挙しながら明確に教えてくれる。「人の短い人生の中では、木が生き続けてきた長い時間を読み解くことなど、見果てぬ夢」と著者は言う。学問と経験を通して、ほんとうの知恵を身につけた人の言葉だと感じる。(ヤマケイ新書、800円)